



篠小だより

～学ぶ つながる 篠原の子～

令和8年8月31日



9月号

〒222-0022 横浜市港北区篠原東三丁目27番1号

Tel045-401-9532

乗り越えていく「つよさ」

校長 岩元 カオリ

7月熊本地震および8月千葉豪雨により被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

この夏、各地が大きな災害に襲われました。そのようなときにあって、学校が無事再開し、再び子どもたちの元気な顔を見られたことにいつも以上に安堵の心地を覚えました。



宮城・石巻の大川小学校から譲り受け、育つひまわり

今なお日本中で多くの方が避難生活を余儀なくされていることに心が痛みます。被災地の多くの子どもたちも夏休みを迎えたその日には、やってみたい遊びや行ってみたいところ、多くの計画があり、そこには大きな希望があったことでしょう。ところが、あのような災害が起こってしまいました。自然の猛威のあまりの厳しさ、むごさに自分の無力さを思い知らされました。そしてこの横浜の地では学校が再開し、子どもたちの明るい声が響くからこそ、私は自分にできること、学校教育のある意味について考え、次のことを実行しようと思い新たにしました。

○困難な状況をはねのける、つよい心をもつ子を育てること

○困難から立ち上がるための知識をもち、その知識を知恵にできる子を育てること

子どもたちにつらい思いはさせたくない、これが正直な思いですが、困難なことに会っても、負けることなく乗り越えた方々の言葉には、はかり知れない心のつよさを感じます。つらく苦しいとき、どんな思いでどんな気持ちで乗り越えたか、知っておくことはできないでしょうか。学校で友達の考えを聞いたり知ったりする、本を読んで主人公の人生を追体験する、道徳の学習や特活、総合的な学習の時間を通して多くの状況から自分や周りの人の気持ちを考える。多くの経験を積み、しなやかでつよい心を育て、何があっても負けない気持ちを生きる希望にしてほしいと願っています。

そして困難な状況から立ち上がり、生き抜くためには多くの知識や新しい方法・考え方が必要です。「こんなときこうすればいい」という出来合いの答えが見つからないとき「こんな方法がとれるかもしれない」という取りかかりとなる知識があることは、一筋の希望となることでしょう。平時は情報へのアクセスはしやすい世の中になりましたが、有事においては知識だけがあっても人材も道具もなく役に立たないかもしれません。そのうえで、窮地を脱するための方法を生み出せるよう、知識を柔軟に使いこなす「知恵」を日々の学校生活の中で培ってほしいと思います。

この夏、多くの経験をして一回り大きくなった子どもたちが学校に帰ってきました。何があっても負けないつよい心とは子どもたちの生きる力そのものです。これからの人生で、たとえ希望が見えない夜があったとしても、そこから立ち上がり負けずに歩いていくことができるよう、乗り越えていくつよさを育て、充実の秋を迎えたいと思います。